

## オリオン座を見つめたふたりの作家

京都薬科大学 名誉教授 桜井 弘

### 中島敦が讀えたオリオン座

中学や高校時代の国語の授業で『山月記』や『李陵』などの名作を読まれた方は多いのではないのでしょうか？東京に生まれた中島敦(1909～1942年)(以下、敦、写真(左))は、中国古典を学び独自の文学世界を築いた昭和時代の小説家で、東洋的な美意識や人間の生き方を哲学的に描き、感動的な作品で知られています。敦は小さいころから体が弱く、わずか33年の生涯を終えましたが、日本文学史に輝かしい足跡を残しました。この敦が、冬の星や星座を美しく描いているのは、ご存知でしょうか？。



写真、中島敦(左)と宮沢賢治(右)  
([https://en.wikipedia.org/wiki/Atsushi\\_Nakajima](https://en.wikipedia.org/wiki/Atsushi_Nakajima)  
[https://en.wikipedia.org/wiki/Kenji\\_Miyazawa](https://en.wikipedia.org/wiki/Kenji_Miyazawa))

夜、外へ出て何気なく東の空を仰いだ時、私は思はず「ア～」と聲を出した。裸になつた榎の大樹の枝々を透して、春以來、半年ぶりでオリオンの昇つて来るのを見付けたからである。青い小さな蜜柑が出始めると、三つ星さまが見え出すんだよ、と幼い頃祖母によく言はれたことが記憶に甦つた。オリオンの上には馭者座(カペラ)だの、紅いアルデバランだの、玻璃器に凍りついた水滴のやうなすばるだのが、はつきりと姿を見せてゐる。

『かめれおん日記』<sup>1)</sup>

筆者は宇宙や天文にはまったくの素人ですが、ある冬、長野県の山の上のホテルの屋上から澄み切った星空の風景を見て感動したことがありました。図1にある冬の大三角形とよばれる三つの星はすぐにわかりました。こいぬ座④のプロキシン、おおいぬ座⑤のシリウス、そしてオリオン座⑥のベテルギウスがひととき大きく輝いていました。オリオン座(図2)の赤いベテルギウスはオリオンの肩の位置にあり、左足あたりに青いリゲル、そしてベルトあたりに三つ星が並んでいます。オリオン座の右上には、おうし座③があり、星が集まってガラスの器のように見えるすばると赤色のアルデバランもわかりました。おうし座の左上

には、さらにぎょしゃ座①のカペラもはっきりと輝いて見えました。

さて、小説家の敦は、なぜこのように宇宙に関心を持ったのでしょうか？敦の短編『狼疾記』では、次のように語られています。

「地球が冷却するのや、人類が減びるのは、まだしも我慢が出来た。ところが、そのあとでは太陽までも消えてしまうという。太陽も冷えて、消えて、真暗な空間をただぐるぐると誰にも見られずに黒い冷たい星どもが廻っているだけになってしまう。それを考えると彼は堪らなかつた。それでは自分たちは何のために生きているんだ。自分は死んでも地球や宇宙はこのままに続くものとしてこそ安心して、人間の一人として死んで行ける。それが、今、先生の言うようでは、自分たちの生れて来たことも、人間というものも、宇宙というものも、何の意味もないではないか」

『狼疾記』<sup>1)</sup>

小学生時代に先生から聞いた地球や宇宙の話が忘れられず、生きるのに憂鬱を感じたようでした。これがきっかけとなり、宇宙に関心を抱き始めたようです。そして、その後、漢詩には、星座をまるで映画の場面のように美しく描きました。<sup>1)</sup>漢詩の横に、私なりの訳文をつけています。

狼星方爛々  
参宿爍斜懸  
凍夜疎林上  
悠悠世外天

おおいぬ座の狼星(シリウス)は今まさに輝き  
参宿(オリオン座)は煌めいて、その斜めにぶら下がっている  
凍るような寒い夜のまばらな林の上には  
無限のこの世の外に天(宇宙)がある

敦は横浜高等女学校で教師をしていたころ、生徒に「オリオン座などを見ていると嫌なことを忘れてしまう」と言っていたそうです。また後に、パラオから妻へ送った手紙では「オリオン(みつぼし)を見つけた。ここでも見えるかと思ったら、一寸うれしかった」と伝えるなど、オリオン座は敦が特に愛した星座であることがわかります。<sup>2)</sup>敦にとって、小学生のころに地球と宇宙の運命を考えることが出発点となり、生涯にわたり天体の美しさに魅了されたことは素晴らしいことでした。



図1. 冬の星座



図2. オリオン座

## 宮沢賢治が幻想したオリオン座

敦とほぼ同じ時代に生きた岩手県・花巻生まれの童話作家・詩人として知られる宮沢賢治(1896～1933年)(以下、賢治、写真(右))もオリオン座をひときわ美しく描きました。賢治の童話『よだかの星』、『風の又三郎』や『銀河鉄道の夜』などの名作を読まれた方も多いことでしょう。賢治も幼いころから体が弱く、37歳で亡くなりました。小さなころから弟や妹たちと家の屋根に登り、夜の星空を眺めていました。中学生のころにはじめて、短歌を歌っています。

## 鉄砲が つめたくなりて みなみぞら あまりにしげく 星 流れたり

1911年(明治44年1月より)<sup>3)</sup>

1911(明治44)年、盛岡中学3年の賢治は空砲射撃演習に加わったそうです。現在の私たちには想像できないことですが、当時の旧制中学の生徒たちは銃をもって軍事教練をしていました。冬の夜になると演習中に抱えていた鉄砲が冷えてきて手が冷たくなったが、南の空を見上げると、とても多くの星々がきらめき、時には流れ星が見え、冬の空の美しさに感動したのです。その後、盛岡高等農林学校に進学して、同じ宿舎で過ごしていた山梨県生まれの保坂嘉内(1896～1937年)から、嘉内が故郷で見たハレー彗星のスケッチを見せてもらって、星や宇宙への関心がいつそう高まっていきました。賢治の詩「東岩手火山」では、次のように、歌いました。

(月光は水銀 月光は水銀)

....

それから向ふに

縦に三つならんだ星が見えませう

下には斜めに房が下つたやうになり

右と左とは

赤と青と大きな星がありませう

あれはオリオンです オライオンです

あの房の下のあたりに

星雲があるといふのです

いま見えません

その下のは大犬のアルファ

冬の晩いちばん光つて目立めだつやつ

です

夏の蝸とうら表です

....

月の半分は赤銅 しゃくどう アースシャイン 地球照

((お月さまには黒い処もある))

....

二十五日の月のあかりに照らされて

薬師火口の外輪山をあるくとき

わたくしは地球の華族である

蛋白石の雲は遥にたゝへ

オリオン 金牛 もろもろの星座

澄み切り澄みわたつて

瞬きさへもすくなく

わたくしの額の上にかがやき

さうだ オリオンの右肩から

ほんたうに鋼青の壮麗が

ふるへて私にやつて来る

....

かすかに光る火山塊の一つの面

オリオンは幻怪 げんくわい

月のまはりは熟した瑪瑙と葡萄

あくびと月光の動転 どうてん

....

火口丘の上には天の川の小さな爆発 くわこうきゅう

『春と修羅』東岩手火山(一九二二、九、一八)<sup>4)</sup>

この詩は、賢治が花巻農学校の教師をしていたころ、野外実習で同行した生徒たちに初冬の星空を解説している風景を描いたものです。

「あれはオリオンです、オライオンです」と賢治は星座を異なった名前で繰り返していますが、当時は星座名は現在のように厳密に決められていなかったため、このように読んだようです。日本で使われる星座の名称は国立天文台編の『理科年表』(丸善出版)などで調べることができます。さて、詩の最後の方で、「わたくしの額の上にかがやき さうだ オリオンの右肩から ほんたうに鋼青の壮麗が ふるへて私にやつて来る」の部分は、まるで現代絵画を想像してしまいます。狩人オリオンの右肩は、ベテルギウスという星で赤色に輝いて見えますが、ここでは鋼青つまり青く光っています。オリオンで青く輝くのは、オリオンの左足にあたるリゲルという星です。一体、どういうことでしょうか？賢治は、『昴』という詩の初めで、次のように歌っています。

### 沈んだ月夜の楊の木の梢に

二つの星が逆さまにかかる

(昴がそらでさう云つてゐる)

オリオンの幻怪と青い電燈

『春と修羅』 風景とオルゴール 昴<sup>4)</sup>

もしオリオン座の星座のみを逆さまにすると、オリオンの右肩には青白く輝くりゲルが来ることとなります。賢治は、奇想天外な想像をして、星座を逆さまに見る面白い方法を考え出しました。そして、これを「オリオンの幻怪」とよんだのです。賢治は、小さなころから星や星座を見て、このように幻想を楽しんでいたのではないかと想像されます。

中島敦と宮沢賢治はほぼ同時代に生き、ともに夭逝しましたが、異質の世界で活躍しつつ、澄みきった夜空を見上げて、オリオン座やいろいろな星の色や形に感動しました。二人は出会うことはありませんでしたが、ともに自分の目で星や星座をながめて、想像をふくらませて作品を書きました。とても楽しそうな気持ちが伝わってきます。読者の皆様も試してみられるのは、いかがでしょうか？

#### [参考文献]

- 1)中島敦全集 1～3 (ちくま文庫) 2009年.
- 2)<https://mobile.x.com/NANK19751207/status/1856929057574900164>
- 3)宮沢賢治全集3(ちくま文庫)1986年.
- 4)宮沢賢治全集1(ちくま文庫)1986年.

桜井 弘